

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	自分や家族・友人が利用したいと思うサービスを提供します。 通所・宿泊・訪問この3つを自由にその方にとって必要な支援を組み合わせ その時の体調や状況によって柔軟なサービスを提供しています。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護深沢	管理者	池田 愛美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団 体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	2人	人	人	1人	人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所自己評価について学習会を開催し、評価の方法について学ぶ。 ・項目ごとに何を目標として目標設定したのか明確にする。 	<p>年度初めに評価の項目についての判断基準や目標設定について学習会を開催したが、小規模多機能のサービスが目指している方向性の理解が足りない為、改善案の考察が難しい。</p>	<p>・コロナ禍や慢性的な介護人材不足等、現場での問題は多いと思いますが、職員のスキルを上げることで「楽」になることもあるのではないのでしょうか。大変だと思いますが、頑張ってくださいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模協議会の示しているライフサポートワークについて学び評価の意味を理解する。 ・外部評価（事業所自己評価等）についての学習会を開き、全スタッフで共有する。
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を感じられるような飾りつけを行う。また、事業所の外にも花や畑などで雰囲気づくりを行う。 ・活動の様子を記録に残し回覧する。 	<p>季節に合わせ飾りつけをご利用者と一緒に作ったり、花を育て雰囲気づくりを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子を回覧することはできなかった。 	<p>・「事業所に入りやすい工夫」は施錠をしないということだけではなく、「気軽にちょっと立ち寄れる」「介護についての相談ができる」となると良いと感じます。物理的に入りやすいということも条件ではありますが、普段からの地域の方との関係づくりもポイントではないのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備の年間計画を立てる（年間を通じて季節を感じることが出来る） ・植木や花をご利用者が自然に管理できる環境を整え、毎月のミーティングで評価していく。 ・広報担当を決め、年に3回は地域の方に見てもらえるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に事業所の様子などを広報で発信していく。 ・先進的な活動をしている事業所（藤沢市や唐津市など）や認知症にやさしい町大賞を受賞した取り組みについて学び、情報共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所の取り組みについて学習会を開催し、情報共有を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食事会などは対象者になってくるので悩んでいる方がいると思います。そういった所で講座みたいなものを持って良いと思います。 ・地域の方はよく見ているのでサービスが入っているとその方の様子が気になる。そこでサービスを知ってもらえるし、地域の安心にもつながると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者のお住いの町内などでの行事やイベントについて調べ、一覧表を作る。 ・食事会等のイベントがある場合は参加できるように努める。 ・コミセン等と連携を図り「介護保険の事」や「人生の最後をどこで終えたいか」等、地域の方が今聞きたい内容の勉強会の開催に努める。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と関係を築くために訪問、送迎時に挨拶や会話をを行う。 ・介護のサービスや役割、認知症についてなど、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で暮らせるための情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や会話などを行い、ご利用者と関わりのある、ご近所の方や民生委員に情報発信を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の敬老会にスタッフの付き添いで参加したというケースもあるので個々のニーズに沿って参加出来たら良いと思います。 ・コミセン等でやっている行事（茶話会など）に参加できない方をどうしていくかが課題で、中学校と連携して自宅に訪問してお話してもらったり電話したりしています。そういったところで情報交換できればいいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅近くの商店街などに一緒に出向き、顔見知りになる。 ・個別の関わりの中でつながりを継続できるように訪問、送迎時に近所の方と話す機会を持ち下地を作っていく。 ・家族や近所から地域の取り組み（お茶会などの集まり等）を教えてもらい、「いつどこでどんなものを」開催しているか一覧表を作る。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の目標を共有し、目標達成のための取り組みについても報告し意見をいただく。 ・ご利用者に必要な支援について検討することによって、地域の課題をみつけ情報共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ書面開催だったが、配布時に委員の方と情報交換させていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は集まったの運営推進会議が出来ていなかったの資料を配布した時に社会資源を教えていただいたので今後の事例検討に活かしていきたいと思っています。 ・こういう場で話を聞くことで「あれはどうかな」とか「こういう方法もあるんじゃないかな」と意見が出るんだと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の目標を共有し、目標達成のための取り組みについても報告し意見をいただく。 ・ご利用者に必要な支援について検討することによって、地域の課題をみつけ情報共有を行う。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の対応や連携について防災訓練の中で検討、発信していく。また、運営推進会議で地域との連携についても検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で災害時の地域との連携について検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に届け出をしている方はできるだけ早めに見回りし安全確保に努めているのでそういうものとリンクして確認したら事業所に連絡を入れ「大丈夫」「大変だから手伝ってほしい」等、連携していければと思います。 ・地区の代表の方と事業所で連絡網みたいなものが作れると良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンなどに声を掛け、コミセンの防災訓練を見学させていただいたり、サポートセンターの防災訓練に参加していただく。 ・一人暮らしの方の近所の方に災害時に本人の様子をくずに確認できるように連絡体制を整えて事業所の防災計画に盛り込んでいく。